2015年5月15日号（通巻05号）

NITTO SEIKO NEWS LETTER ニュースレター
京都府綾部市井倉町梅ヶ畑20 日東精工株式会社 企画室発行

「ねじは人類最高、たぐい稀なる発明だと思います」。

6月1日は「ねじの日*」。「ねじの日」を盛り上げ、多くの方に「ねじ」の大切さを再認識していただきたいと願います。そこで、今月のニュースレターは「ねじっておもしろい、ねじを好きになろう」特集。まず、静岡理工科大学教授、ノースカロライナ州立大学併任教授で、応用物理学会フェローでもある、志村史夫先生を京都・綾部にある日東精工本社にお招きしました。「ねじ」について造詣が深い志村先生にねじづくりの現場見学をしていただき、当社、材木正己代表取締役社長とねじの魅力について語り合っていただきました。

シンプルだけれど完成されたねじ

～本日は足をお運びいただいてありがとうございます。日東精工へは初めてでいらっしゃいますね。

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』で、御社のことを知りました。この本、じつに面白い本です。ユニークな人財教育をされているのですね。いつも研究室にいる教え子の就職先のことを考えていますから、「こんな会社で働けることになれば学生は幸せだろうな」と率直に感心しました。

じつは私、ヘリカルサイエンス（螺旋（らせん）科学）学会に所属しておりまして、ねじそのものが大好きな人間です。人類にとって最大の発明のひとつが、ねじだと思っているのです。ねじの会社に招かれたのでお世辞を申し上げているのでなくて、実際、自分の本『古代世界の超技術』（講談社ブルーバックス）に「私が最も偉大な発明だと思うものが歯車とネジである。きわめて簡単な構造でありながら、その応用性と有用性が多大なものはネジと歯車において他にあるまい」と書いているのです。

～ええ、その御本を拝読し、とても嬉しく元気になりました（笑）。いちばんのねじの理解者の方に、今日は当社の工場、ねじづくりの現場を見ていただいたのですが、いかがでしたか？

昔、NECに在籍したことがあるのですが、試作部というのがあって、研究のための装置や部品をつくるわけです。企業秘密を守るため、外に依頼できないわけです。そこでねじを削っているのは見たことがあるのですが、こんなふうに圧転造で大量につくっている製造現場を見るのは初めてでした。楽しかったですし、見ていて飽きませんね。ねじそのものはシンプルだけどとても美しい、そして奥が深い。以前、囲碁の大竹英雄名誉碁聖とテレビで対談したことがあり「名勝負といわれるものの棋譜は理屈抜きに美しい。正しいもの、理にかなったものは美しい」という話で盛り上がったのですが、ねじを見てそのことをまず思い出しました。理にかなった構造物の神秘、「機能美」という言葉だけで片付けてしまうのは、少しもったいないかもしれません。アインシュタインの有名な方程式「$E=mc^2$」もそうですが、きわめるとシンプルになります。

～ええ、ねじはシンプルで「完成」したものですね。構造はシンプルだけど、先生が書かれているように「応用性と有用性が多大」でもあります。わたくしどもは今でも1日に3件、月にすればだいたい60件ぐらい、新しいものをマーケットに出しているのです。それぐらい常に新しいニーズ、需要があるわけで、創業以来、これまで7万種ぐらいのねじをつくってきました。なかでも得意とするところは精密ねじ、極小ねじ。一般の方が、0.6ミリのねじをごらんになると、た

※1949年6月1日にねじ製品がJISに指定されたことにちなんで1975年に制定

志村史夫先生プロフィール
1948年東京生まれ。名古屋大学工学博士（応用物理）。応用物理学会フェロー。志望塾塾長。日本文藝家協会会員。静岡理工科大学教授、ノースカロライナ州立大学併任教授。最近はインド・ギリシャ哲学、古代技術、現代物理（特に量子論、宇宙論）、生物機能、物質と生命などに興味を持っている。文系・理系著書多数。

いていその小ささにまず驚かれる。次にその頭にきちんとねじ穴、溝があるのに感心されます。そして「このねじどうやって締めるのですか」とくる……。

ええ、そうでしょうね。精密ねじの量産化を世界ではじめて成功させたのは、日東精工さんだったとお聞きしました。しかも日東精工さんではそれを締めるドライバー・ねじ締め機やねじ締めロボットもつくられている。小さなねじをつくっても締められなければ意味がない。トータルでねじに取り組んでおられるわけですね。

ねじの技術・圧転造を応用してねじ以外の部品もつくられていて、今日は情報機器の部品工程も見せていただきました。６回叩いて少しずつ穴を広げていき貫通させるのですが、こうすると最後の最後のところでの材料が除かれるだけで、ほとんど無駄がない。最初と最後で形は全く違っていても、体積はほとんど変わらない、削ってつくるよりもはるかに効率がいいわけです。より小さくとか軽くとか、ゆるまないようにとか、使いやすくとか、あるいは無駄を減らすといった加工技術、匠の技に、日本の会社のものづくりの底力を感じました。

自動車向け用途でナンバーワンをめざす

～おほめいただいてありがとうございます。社員には常日頃、ナンバーワンになれとハッパをかけているのです。田舎の会社ですし、ねじという縁の下の目立たぬ部品に携わり、冬場、寒い工場のなかでというと、どうしても地味になりがちですが、うちの会社でいちばんになれば、じつは日本一、世界一につながるのだよと言っているのです。

そうです、いちばんを目指すのが大事ですね。最近の日本人はどうも「オンリーワン」が好きなようです。もちろん、オリジナリティがあふれる有益なものなら「オンリーワン」は大歓迎だけど、なんでもかんでも敗者の言い訳みたいな「オンリーワン」はいただけません。やはり「ナンバーワン」を目指すところに、発見があり成長がある。昨年夏に出した『一流の研究者に求められる資質』（牧野出版）という本のなかでも、そのことに触れています。

あと一流に求められるのは、直感でしょう。また察知する力、偶然を必然に変える力などもそうでしょうか。工場を見学したおりに本来、三角の線材を入れないといけないところを、たまたま誤って丸いものを入れてしまった、それがきっかけでねじのヒット製品が生まれたとお聞きしましたが……。

～それは「タップタイトねじ」ですね。一般の方はねじといえば、ねじ部（頭でなく軸の部分）は丸くなっているのがふつうだとお考えになるのですが、じつは三角おにぎりのような形になっています。三角になっていることで、丸よりもねじが抵抗少なく入っていく、締めた後は逆に安定性が増しゆるみにくい、作業性の高いねじです。もともとはアメリカで開発され、50年ほど前に技術援助契約で当社に導入されたものです。三角をつくるには三角線材という手順があったのですが、たまたまの手違いがきっかけで、丸い線材を使うほうが、より効率的で作業が安定するということがわかり、当社で改良、大量生産ができるようになりました。このねじは、世界で生産されているタッピンねじのなかでも、圧倒的なシェアを誇っています。

おむすび（三角）形状

たまたまミスしたことでも凡才だとシマッタ、ヤラカシタで終わってしまうのですが、感性を磨いていると新しいことに気がつける。自分の経験値からいって、だいたい直感したことは正しいのですが、それを精査することも大事で、精査することで直感力も磨かれます。日東精工さんには感性豊かな技術者、匠がたくさんいらっしゃるということでしょう。

～ありがとうございます。それで、わが社で今、世界でナンバーワンをめざしているのが、自動車用途用の「セルフタッピンねじ」です。一般にねじにはおねじ（ボルト）とめねじ（ナット）があります。

タッピンねじというのはシンプルな表現をすれば、めねじ加工を事前に施さず、おねじが相手材に対して、めねじ加工をしながら、締まっていくものです。

それだと、製造工程がかなり短縮できるし、コスト軽減にもつながる。家電などにはすでに採用されているとお聞きましたが、自動車用途ということだと、やはり、より安全性・強度などが求められるということなのですね。見通しはいかがなのですか？

～もろもろのスペックはクリアーできていますし、すでに採用していただいたところもあり、まさにこれからというところですね。欧米などでは、もうこれが主流になりつつあります。

世界標準と日本標準の明確な線引きはないけれど、日本のほうが、より丁寧に細かいところまで求められる傾向があります、慎重というか時間がかかる傾向がありますね。

それで思い出したのが車のバンパー。バンパーは本来、車両本体を守るためのものです。多少傷ついたりへこんだりしてもかまわないもの。だから路上で縦列駐車をするとき、アメリカだとバンパーを平気でぶつけながら停めています。え、こんな隙間にというところを、バンバンぶつけながら停めている。ところが日本でこれをやったら、とんでもないことになりますね。バンパーもピカピカなのがいいわけで、小さな傷でも気にする人が多い。車を守るためのバンパーを守ろうとする。本末転倒です。

もちろん自動車のバンパーの話とねじの研究開発とを同列にはできないけれど、ディテールにこだわりすぎて大事なこと、本質的なものを見落とさないようにしないといけません。

～そうですね。世界に目を向けたときは、日本的な細部の細部にまでこだわった追求でなく、スピード感も大事にしないといけないのではと実感しています。誤解されるといけないのですが、少しぐらいはアバウトなところがあってもいい、もちろん守るべき大切なものは守ってのうえですけれども……。

古代、そして生物から学べるもの

私が『人生の「ねじ」を巻く77の教え』のなかで、とくに共感したのは「私は会社の歯車だと言える自信を」というフレーズです。「組織の歯車にすぎない」などと謙遜で使うことがあるかもしれないけれど、じつはそれはとんでもない思い上がり。時計ひとつとってみてもわかるように、小さなねじ１本がなくなっても、歯車ひとつ欠けても、時計は動かなくなって、本来の機能を失ってしまいます。自分がいなくても滞りなく業務が進んでいくのなら、歯車という存在にもなっていないわけで……。さすがにねじをつくられている会社の言葉だと感銘しました。

そもそもねじは日本では火縄銃に使われたのが最初でしたね。歴史を紐とけば、レオナルド・ダ・ビンチや、いやもっと前のギリシアのアルキメデスの時代まで遡れる。そのころからすでにねじが「完成」していたというのはやはりすごいことです。そして、それはそもそも法螺貝(巻貝)のらせんがヒントになっている……。生物のらせんからねじが発明され、モノとモノをつなげる(締結)用途だけでなく、ポンプ（揚水）や印刷技術に発展していくわけです。

～志村先生のもともとのご専門は半導体の研究ですが、それだけでなく、先ほどもご説明いただいた『古代世界の超技術』をはじめ、古代技術や生物機能についての本もたくさん著されていますね。

アメリカで研究生活を送っていたときに、マリナーズの、今のセーフコフィールドではなく一つ前ですが、球場がわずか30年もたなくて取り壊しになったことに驚きました。近年のコンクリートできた構造物の寿命がわずか50年、せいぜいもって70年、80年。しかし、法隆寺は1300年以上びくともしない。東京の新名所、最新の技術を駆使して完成したスカイツリーですが、心柱を挿入した制振システムは、法隆寺の五重塔の心柱が応用されています。古代鉄、古代瓦……日本だけでなくピラミッドやギリシアのパルティノン宮殿などを見るにつけ、古代人の技術力・智慧には感心するばかりです。

でも、そもそもその法隆寺を支える「ヒノキ」はさらにはるかに長い年月を「凛」として立っていたのです。そう考えると生物が持っている機能は、もうスゴイとしかいいようがないですね。御社のオリジナル人財教育本『ザ・プロフェッショナルへの道』で紹介されているネコザメの卵の写真、あのらせん形も、理にかなっている……。

～先生はご著書の中で、人は自然界に学ぶことはできても、完全には、マネはできないという趣旨のことを書かれています。

だってそうでしょう。たとえばみなさんご存じのダンゴムシ、触るとくるくるって脚を折りたたんで体を丸くします。瞬時にあんなことしますけど、この技術だってすごいですよね。私は脚をたたむのを失敗したダンゴムシを見たことがありません（笑）。電柱がどうやってつくられるかご存知ですか。あれは竹の構造がヒントになっているそうです。竹は大きいものだと20メートル以上になりますが強風にあおられても、ほどよくしなって、折れることはありません。中空になっていること、節があることなど、いろいろ複合的な理由があるのですが、棹部の構造がやはり理にかなっているのです。維管束と柔細胞から成っているのですが、維管束の密度が内側から外にいくほどに詰まって行く構造になっている、だから外からの力に耐えることができるのです。

～ただ硬くすればいいというものではなないのですね。ねじもやはり同じで、硬さ、強さだけを追い求めるとポキンと折れてしまいます。小さな1本のねじでも表面と中心では強度・硬度を変えるなど工夫をしています。

努力し、工夫する人間も偉いです。でも人間が加工するときに冷却したり、熱を加えたり、圧力を加えたりといったあれこれと手を加えるのに対して、生物はそれを常温常圧で、こともなげにやってしまうところが、すごいとしかいいようがありません。

ねじとシルクの意外な共通点

～マネはできないけれど学ぶことはできる。温故知新といって先達に学べとはよく耳にしますが、それだけでなく、身の回りのもの、自然には、まさに法螺貝がねじのヒントになったように、学べるものがたくさんある……。

そうですね、ねじの話から話がそれてしまいました。脱線ついでにもうひとつ。ここ綾部は養蚕が盛んで、御社だけでなく、グンゼさん発祥の地でしたね。

じつは私は蚕を飼って観察したことがあるのですが、そのときに思い込みがたくさんあることを改めて実感しました。昔の映画でモスラが東京タワーの下から糸を勢いよく吐き出すのを見た影響で、てっきり蚕はシルクを口から吐き出すものだと思っていたのですが違いました。蚕は糸を吐き出すのではなく、出したものをすーっと引いていくのです。それがだんだん増えて繭になっていくわけで、繭の中に入るのではなく自分が引っ張った糸が増えるにつれ、その糸でその姿が見えなくなる。

蚕の生物機能、そのハイテクぶりを語りだすとまたそれだけで１冊の本になってしまいますが、先ほどねじのお話で「三角」が出ましたけれど、蚕の糸の断面はじつは三角なのです。蚕はその三角を２つ合わせ１本の糸にするのです。毛利元就の３本の矢ではないけれど、ひとつよりもふたつ合わさるほうが、強度が増します。そして１本なら円（丸）でもいいけれど、２本合わせることを考えるなら三角のほうが、都合がいい……ねじにもつながる、ちょっといい話でしょう!?

～先生のお話、ほんとうにおもしろく、ためになり、つきることがありません。最後に日東精工という会社、あるいはねじに対して、改めての感想なりアドバイスなりをいただけますか？

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』のなかでゼムクリップのことを紹介されていましたが、ゼムクリップ同様、ねじも「取扱説明書」がなしでだれもが使いこなせます。それだけシンプル、わかりやすいものなのに、それを日々改良し続け、常に「新しいもの」を生み出しておられるのは、感動的です。

その一方で、ねじについて、その大切さを意識する人が少ないのは残念ですね。日東精工さんには、ねじのリーディングカンパニーとして、ねじの大切さをもっと啓蒙していただきたいです。ねじを知る

ことはモノづくり、人づくりの基本かもしれません。

今日御社に伺ったことで「自然界の螺旋構造、ねじの歴史、科学、技術、応用」といったテーマで早速、本を書きたくなりました。 おおまかの構想がすでに頭の中に浮かんでいます。「人生訓」や「ねじの教え」については、私には『人生の「ねじ」を巻く77の教え』以上の本を書くのは不可能ですが、科学の分野で少しは貢献できればと思っています。

～それは素晴らしいですね。ぜひお願いいたします。『人生の「ねじ」を巻く77の教え』はポプラ社から出版したのですが、ポプラ社さんはもともと児童書の老舗、そんなご縁もあって当社のイベントとして絵本の読み聞かせ会なども、昨年させていただきました。ねじはモノとモノをつなげる、絵本は親と子、人と人をつなげる……、つなげる大切さをキーワードにしたものです。わたくしどもも、これからの時代をになっていく、次代、次々代に向けて、ねじやモノづくりの大切さを伝えるものを、盛り上げていければと願っています。ぜひ、また綾部におこしください。ありがとうございました。

NITTO's TOPICS

ナンバー１生活実用女性誌「ESSE」でねじ＆日東精工を特集

6月1日の「ねじの日」にちなんで、フジテレビ発行の生活実用誌「ESSE」（発行部数ジャンルナンバー1）の６月号付録で、ねじの大切さやねじの魅力を特集。そして当社・日東精工が人にやさしく、女性が働きやすい会社であることを2ページで大きく紹介しています。また右側のTOPICでも紹介している「精密ねじ」プレゼントキャンペーンや、ねじキャラクターの名前募集なども掲載。この記事は当社・ホームページにもアップしていますので、ぜひご覧下さい。

ねじをつくる会社は人にやさしい！女性にやさしい！

ねじってほんとうに大切なものです

「元気」「自信回復」のお守りに！精密ねじをプレゼント！ねじキャラクター愛称募集

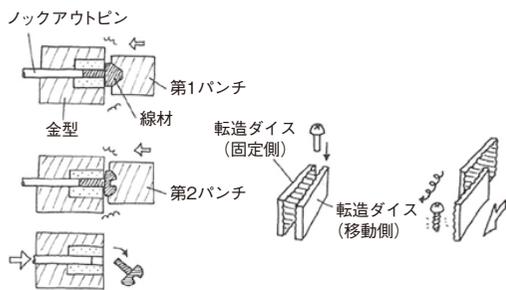
ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を「合格祈願ねじ」としてプレゼントするキャンペーンを展開し、たくさんの方に喜んでいただきました（P７参照）。キャンペーン第２弾として「精密ねじプレゼントキャンペーン」を実施します。日々の暮らしのなかで「なかなか自分のことを評価してもらえない」「自分の思いを伝えられない」「自分はほんとうに必要とされているのかしら」などと辛く感じるときに「こんな小さなねじにも大きな役割がある」と自分を励まし元気になる、前を向くためのシンボルにしていただければと願うものです。

また、ねじに親しみを感じていただくために生まれたキャラクラターへの愛称も募集しています。キャンペーンの詳細は当社ホームページhttp://www.nittoseiko.co.jp/ もしくはブログ「おもしろ、ねじミュージアム」http://blog.j-cast.jp/nittoseiko/でご確認ください。

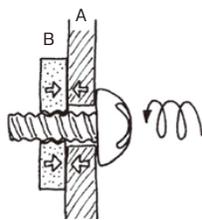
今さら聞けない!?「ねじのキホン」

わかっているつもりでも、人に説明しようと思うとうまく表現できないことは多いですね。ふだんの暮らしのなかで、欠かすことのできない身近なねじについて、書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』のコラムを一部流用しながら、少しおさらいをしてみましょう。

ねじはこうやって作ります！

ねじは①圧造②転造③熱処理④メッキ⑤検査⑥梱包⑦出荷という７つのプロセスを経てお客様のもとに届けられます。ここでは圧造と転造を解説します。

圧造●①線材（ねじの材料）を金型に挿入し第１パンチで圧力を加え大まかな頭を成形②第２パンチで頭や寸法を整え、駆動部（十字穴等）をつけます③ノックアウトピンで後ろからねじを突き出し、ねじの頭部の成形は完了。転造●転造ダイスという２枚の板（固定側・移動側）でねじ部をはさみ、移動側を並行移動させ、5～6回転がして、ねじ山をもみ上げます

ねじはなぜ締まるの？

２つの部材AとBをねじで締結する場合、ねじが締まるにつれAには押さえつけられる力が加わります。逆にBにはらせん形のねじ山により巻き上がる力が働きます。らせんの力によって逆方向の力が相互に働き合い、部材を強固にはさみ込むことで、２つの部材が締結されます。

ねじにも男と女あり

ねじの円筒または円錐部分の外側にねじ山（ギザギザ）がある「おねじ」と内側にねじ山がある「めねじ」、この2つの組み合わせで締結するのがねじの基本です。「タッピンねじ」というものもあり、これはねじが下穴に回転しながら穴の内側にめねじを形成するものです。一般的にはナットと組んで使われるおねじをボルト、タッピンねじやねじ部の直径（M）が8ミリ以下のおねじを「ねじ」と呼んでいます。

ねじいろいろ、プラスでもマイナスでもない、Y

日東精工で製造するねじはすべてオーダーメイド。たとえば写真左は「TPR駆動部ねじ」といいます。ねじ穴が＋でもなく－でもなくY、携帯電話などに使われます。特殊なねじ穴を採用することで、安易な取り外し防止の役目を果たしているのです。また、はずせる、ゆるめることもできるのがねじの特徴ですが、海賊版製造防止対策などとして、絶対はずせないねじをというオーダーにお応えすることもあります。「オーディトルクス」（写真中）は、設定値以上にトルク（ねじにかかる力）が加わると駆動部が自動的に破断、切断されるもの。ねじの頭がなくなってしまうので、はずせなくなるのです。また、ねじ穴の仕掛けでドライバーをゆるめる方向にまわせない一方通行の「ワンウエイ」（写真右）もあります。

指でつかめない、極上ねじ

当社で製造しているねじでいちばん小さいのが、ねじ部の直径（呼び径）が0.6ミリのものです。指でつかもうと思ってもなかなかうまくいきませんが、当社ではこれをきちんと締めるねじ締め機も製造しています。またこんな小さなねじですが、ねじ頭に名前や数字、マークを刻印できるので、意匠性をもたせることや、品質保証、犯罪防止などに役立っています。

ねじが紡ぐハートフルストーリー

ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を合格祈願用にプレゼントするキャンペーン。TBSの「いっぷく」テレビ朝日の「モーニングバード」など朝の情報番組をはじめ多くのメディアに取り上げられ、その反響の大きさに8回まで追加募集受付をし、のべ997名の方にプレゼントしました。受験生本人だけでなく、御家族からや担任の先生がクラス全員に渡したいというご依頼もありました。また受験生でないけれど自分への励みにという応募もありました。合格した、力をもらえたという喜びの声が多数寄せられています。ねじが紡ぐハートフルストーリー、ここでその一部をご紹介します。

応募者からのコメント（応募時）

●息子(18歳)へプレゼントしたい。遠く海外赴任ですので、これくらいのことしかできなくて。

●成績の良い子ではありませんが「ロボットをつくる人になりたい」と言って決めた受験です。ねじは、とても彼に勇気を与えてくれる気がします。(11歳息子の母)

●はじめまして。私は中学三年生の女子です。この冬は高校受験が控えています。なので頑張って勉強する日々です。もうすぐ冬休みですが、まだまだ不安で仕方がありません。ぜひ「ゆるみ止めねじ」を下さい！お守りにして、もっとしっかり勉強して、第一志望校に合格したいです。

●**高校生の弟が大学受験で、是非お守りに珍しいゆるみ止めねじをプレゼントしたいです。**

●お守りを探していたところこちらを知りました。もうすぐ車の整備士試験を受ける友達にプレゼントしたいです。

●○○中学校　３年１組の学級委員をしています。最後の追い込みのために教室に置きたいと思います。できれば３年２組の分と合わせて、２個いただけませんでしょうか、お願いします。

●父は二輪車の販売・修理をしていたので、小さい頃から色々なねじで遊んでいました。今も父の残したねじ入れが倉庫の奥で眠っています。また、連れ合いの母は今年77歳になります。受験生ではありませんが、貴社のゆるみ止めねじでゆるんでしまった部分が一つでも締められますように！

●息子には内緒で応募していましたが、息子はねじのことは何かで知っていたようです。最近、ピリピリムードでしたがねじをプレゼントすると嬉しそうな顔を見せてくれました。緊張し過ぎず、気はゆるめず、頑張ってくれることでしょう。本当にありがとうございました。

●想像以上の素敵な箱に入れてあり感激しました。でもそのままでは失くしてしまってはいけないので、カプセルのついたキーホルダーを購入し、中に入れてペンケースにつけることにしました。この企画で無縁だった会社を身直に感じることができて、どんな広告やCMよりも好感度アップでした。

●頂戴したねじのおかげで無事、希望校一本受験、志望高校に合格することができました。今後も、日々、良い日、悪い日、嫌なことがあっても「緩むこと」「ナメること」「クサルこと」身に付いた努力が「錆びること」がないようまだメッキの中学生から本物の大人になれるように娘を指導して行きます。ありがとうございました。

●**ゆるまないねじで無事「合格しました」。本当にありがとうございました。今後も日々精進。ギザタイト、ギザすばらしす!!**

●私、現役時代は製造メーカーで開発担当でした。振動によるねじのゆるみはあまり影響しない領域の構造物でしたが、あるとき大きな障害につながる不具合が生じました。そのときの対策として大きな効果があったのがねじ。機器の陰に隠れた場所に鍼のツボよろしく１ケ所だけにねじを打つことで切り抜けたという経験がありました。まさに必殺仕事人のうなじへの一鍼でした。ゆるみ防止ねじは私への何十年ぶりかのお年玉です。ありがとうございます。感謝申し上げます。(64歳)

※いただいたコメントは紙面の都合上、また個人が特定できないように一部編集加工してあります。

新・人生のねじを巻く教え⑤

大きくなるほどに細部への目配りを。
～泰山木の実が教えてくれるもの～

「泰山木（たいさんぼく）」という植物をご存知ですか？

もともと北米中南部原産ですが、公園に植えられたり街路樹に使われたりしているので、名前は知らなくても、じつは案外目にすることが多いかもしれませんね。６月から７月にかけて花を咲かせます。まさにこれからが、花の季節です。

泰山とは、大きな存在感のある山のことで、泰山木も文字通り大きな木で20ｍに達する常緑樹。濃い緑の艶がある葉の上に大輪の花を咲かせます。

馥郁（ふくいく）たる香りを放ちながら、天に向かって真っすぐ伸びるこの樹は、多くの人々に愛されてきました。随筆家の白洲正子さんも「この花を活けるときには〝芳香放つ気配〟を考慮する」とおっしゃっていました。

そして、じつは泰山木の真骨頂といえるのは花を終えてからです。秋に、鮮やかな朱色の実をつけますが、この実をドンと地上に落とすのではなく、一粒ずつ、糸状のもので垂れ下げ、地上にそっと下ろすのです。丈の高い樹だけに、実が直接地上に落ちれば衝撃の痛みが大きいと思いますが、静かに糸を垂らして、地上に送り届けるという、自然の知恵の深さをしみじみと感じさせます。小さな生命を傷つけないよう慎重に扱う細かい心づかいは見ごとです。

大きくなればなるほど細部にまで気くばりをせよという教えを、自然の摂理のなかで私たちに示唆を与えているようですね。これから咲き誇る花を愛でながら、その実に思いを寄せてみてはいかがでしょう。

（経営コンサルタント　蒲田春樹）

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）は当社オリジナル教則本を一般向けに再編集したもの。書籍に掲載していないものや重複しても更新していくべきものなどを随時ここでご紹介していきます。

ねじのある街・あやべの魅力

世界平和を日本ではじめて宣言したのは綾部市。
アンネのバラが平和の願いをつなげます。

綾部市は日本初となる「世界連邦都市宣言」を行なった市です。いわば世界平和を希求し、牽引する街なのです。今回は平和つながりのエピソードのご紹介。

『アンネの日記』のアンネ・フランクは有名ですね。そのアンネにちなんだバラのお話です。ナチスドイツのファシズム下での辛い体験をもつ、ベルギーのバラ育苗家が、昭和35年に育成した新品種のバラが「アンネの形見のバラ」と命名され、アンネの遺志を伝えるために活動していた父、オットー・フランクさんに贈られました。このバラを広めることで、平和も広めたいという願いが込められたものです。

バラを育成したデルフォルグさんが、有償での販売を禁止していたため、アンネが生まれたヨーロッパでは、現在はすでに絶えてしまったと言われています。けれども日本では、アンネの形見のバラ「アンネのバラ」は昭和51年、緑あって、綾部市在住のバラ育苗家山室隆一さんに託されて増やされ、学校や自治体施設など日本各地に普及しているのです。

隆一さん亡き後は息子の建治さんが継がれていて、やはり学校などにバラが寄贈されています。また一般の方も参加できる「バラの接木会（つぎきかい）」も毎年開催、アンネのバラの接木で、世界平和の願いをつないでいます。（親子二代、39年間で８１１３本となります）。

綾部市に本社をおく日東精工も、もちろん、その平和をつなげる思いを共有しています。

ＪＲ綾部駅北口ロータリーにはアンネ・フランクの彫像が立ち、その周りにはたくさんのバラが植栽されていて、春秋のシーズンには平和の花が咲き誇ります。綾部バラ園では「バラまつり」も開催（今年は５月23日～）。

発行：日東精工株式会社企画室　☎0773-42-3739　http://www.nittoseiko.co.jp/